



Title	日本語の受動表現からみたスウェーデン語の受動表現の分析：動作主の人称の関係から
Author(s)	西澤, 清華
Citation	IDUN - 北欧研究 -. 2022, 24, p. 21-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87435
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語の受動表現からみた スウェーデン語の受動表現の分析

動作主の人称の関係から

西澤 清華

1. はじめに

多くの言語では能動文と受動文¹という構文の対立がある (Whaley 1997). 動作の主体から事態を描き出すのが能動文であり, 主体ではなく対象の側から事態を描き出すのが受動文であるが (日本語記述文法研究会 2009: 209), スウェーデン語と日本語の対訳をみると, 両言語の態は必ずしも一致するわけではない. 例えば, 小説『猫の客』では, 以下のような対訳がみられる.

- (1) 日本語: 慎重でおとなしい父猫は²そのまま, おとうさんと
呼ばれた. (『猫の客』26.146.11³)
スウェーデン語: Den försiktige och lugne pappan kallade vi helt
enkelt för Pappa. (Gästkatten 26.124.8)

上記の例文に補足を加えると, (1)は「父猫は (私たちによって), おとうさんと呼ばれた」となる. ここにおいて, 父猫をおとうさんと呼んでいる動作主は一人称である「私たち」だが, 日本語では受動文, スウェーデン語では動作主を明示し能動文となっている. この場合, スウェーデン語での態を決定する要因はなんだろうか. 本稿では, 動作主に注目して分析を行いたい.

スウェーデン語の受動文に関する先行研究は, s-受動態と過去分詞受動態がそれぞれどのような状況下で用いられるのかということに焦点が当てられてきた⁴. また, 先行研究から, 日本語, スウェーデン語それぞれで受動文が用いられる要

¹ 以下, 「受動態」とは動詞の形態が受動であるものとし, 受動態を含む文を「受動文」とする. 例えば, 「鈴木が佐藤に殴られた.」(日本語記述文法研究会: 2009) という文では, 「殴る」という動詞が能動ではなく受動の形態で用いられているため, 「殴られ」は受動態であり, この例文は受動文となる.

² 下線の付加は筆者による. 以下同様.

³ 数字は出典の「章-ページ数-行数」を表している. 以下同様.

⁴ s-受動態と過去分詞受動態がそれぞれどのような状況下で用いられるのかを扱った研究には, Sundman (1987), Engdahl (1999, 2001, 2006), Engdahl & Laanemets (2015) 等がある. また, SAG4 (1999) にも記述がある.

因は明らかになっている⁵が、日本語をスウェーデン語に翻訳する際にヴォイスの観点からどのような要因が働いているのかは、日本語で書かれたスウェーデン語教科書にも管見の限り記述されていない。

そこで、本稿は、動作主の人称の観点から、日本語の受動文とスウェーデン語の受動文を比較し、スウェーデン語の能動文・受動文の分析を行い、傾向を明らかにすることを目的とする。

ここで本稿の構成を示しておきたい。まず、2章で研究の方法を述べる。次に、3章では日本語とスウェーデン語の対訳データを動作主の種類別に分類し、その結果を分析する。4章では3章の結果を踏まえ、スウェーデン語コーパスも参照しながら考察を行う。最後に5章を本稿のまとめとする。

2. 方法

スウェーデン語と日本語の受動文を対照させるにあたり、小説の原文と翻訳を使用した。小説を選んだ基準としては、原語から直接訳されているもの、原文が100年以内に書かれており、かつ訳文が比較的新しいもの、作者も訳者もそれぞれ異なるものの中から入手可能な2作品を選んだ。この場合の利点として、文脈がわかり、より分析しやすくなるという点が挙げられる。詳細は以下の表のとおりである。

原文			訳文		
小説名	発表年	著者	訳本名	出版年	訳者
『沈黙』	1966	遠藤周作	<i>Tystnaden</i>	2016	Eiko&Yukiko Duke
『猫の客』	2001	平出隆	<i>Gästkatten</i>	2015	Vibeke Emond

(表 1) 用例の出典

それぞれの小説の日本語原文（以下用例中では「日」）、スウェーデン語訳文（以下用例中では「ス」）から、それぞれ受動文を抽出し、分析を行う。また、以下例文の出典については、章番号、ページ番号、行数の順で数字を挙げている。

用例抽出の範囲については、『沈黙』は第4章まで⁶を対象とし、『猫の客』は小説全体を対象とした。

⁵ 受動文が用いられる要因について、日本語の受動文に関しては、寺村（1982）、久野（1978）、益岡（1987）、工藤（1990）、益岡&田窪（1992）、高見（1995、2011）、森田（2008）、日本語記述文法研究会（2009）などでまとめられている。スウェーデン語の受動文に関しては、Sundman（1987）、Andersson（1994）、SAG4（1999）などでまとめられている。

⁶ 2作品中の受動文の各件数をほぼ同数にするため、一部を範囲とした。

分析の際、スウェーデン語では訳が抜けている、あるいは日本語にはない文が付け足されているなど、対応関係がないものは除外した。また、日本語とスウェーデン語で大幅な言い換えがあるようなもの⁷は分析の対象外とした。

受動態の定義については、日本語は「レル」または「ラレル」の形になっている動詞のうち、尊敬・可能・自発の意味を持つものは除き、受動の意味を持つものだけを受動態として考える。スウェーデン語については、s-動詞のうち、デポーネンス⁸を除いた受動の意味を持つものと、過去分詞受動態を受動態とする。過去分詞受動態の過去分詞の定義については、Svenska Akademien (2015) (以下 SAOL) を参照し、形容詞として記載されているものは除外した。

3. 結果と分析

まず、受動態の件数⁹については、合計で 591 件であった。『沈黙』と『猫の客』における日本語とスウェーデン語それぞれの受動態の件数は、以下の表の通りである。

	日本語	スウェーデン語
『沈黙』	167	180
『猫の客』	196	198
合計	363	378

(表 2) 『沈黙』と『猫の客』における両言語での受動態の件数

この 591 件を態の観点から 5 通りに分類した。分類とそれぞれの件数の内訳は、以下の表の通りである。

⁷ 例えば、次の(2)では日本語とスウェーデン語で話し手が異なっている。日本語では話し手であるロドリゴ(=「私」)が「私たちが(村人たちに)かくまわれていることは(藩の役人たちには)まだ気づかれていなかったのです」と述べている地の文であるが、スウェーデン語では村人が「彼ら(=藩の役人たち)は、私たち(=村人たち)があなた方(=ロドリゴたち)をかくまっていることにまだ気づいていない」と発言する会話文になっている。

(2) 日: 私たちがかくまわれていることはまだ気づかれていなかったのです。(『沈黙』3.68.15)
ス: "Än har de inte lagt märke till att vi har hållit er dolda." (『Tystnaden』3.79.12)

このように、原文では地の文であるにもかかわらず訳文では会話文になっている、原文が複数の文に分かれているところを訳文では内容をまとめて 1 文にしている等、文脈なしでは対訳だとわからないようなものは、分析の対象外とした。

⁸ s-動詞だが受動の意味を持たず、統語的に s-動詞でない動詞と同様の機能を持つものをデポーネンスという (SAG2 1999: 554)。

⁹ 文単位ではなく、受動態となっている動詞の数を数えている。

	日本語→スウェーデン語	『沈黙』	『猫の客』	合計
①	受動態→受動態	74	76	150
②	受動態→能動態	48	65	113
③	受動態→動詞以外	45	55	100
④	能動態→受動態	79	81	160
⑤	動詞以外→受動態	27	41	68
	合計	273	318	591

(表3)『沈黙』と『猫の客』における受動態の分類と件数

この中で、動作主の人称という観点から分析を行いたい。今回、上記分類の中で、「①受動態→受動態」「②受動態→能動態」「④能動態→受動態」に当てはまる文を、動作主の種類別に以下の4通りに分類した¹⁰。

- ・不明
- ・不特定¹¹
- ・二人称または三人称
- ・一人称

上記の動作主の種類別で、スウェーデン語における態がどのようなになっているかを調べた。その結果を次節以降で述べていきたい。

3.1. 動作主が不明の場合

まず、動作主が不明の場合、日本語では受動態が使われている例も能動態が使われている例もみられたが、いずれもスウェーデン語では受動態が使われていた。具体的な例としては、以下のような文がみられた。

(3) 日： ただ、我々に故郷を偲ぶすのは、町の中心に作られた総督の官邸
やポルトガル風の商館と石畳の路です。(『沈黙』1.20.11)

ス： Det enda som skulle kunna föra tankarna till något i vårt hemland
är guvernörspalatset mitt inne i staden, handelshusens byggnader

¹⁰ 「③受動態→動詞以外」「⑤動詞以外→受動態」については、動詞以外の要素が関わってくるため、今回の分析からは除外した。

¹¹ 「不明」と「不特定」の差異については、「動作主Xがその行為を行なった」と言えるが、Xが誰であるか不明な場合を「不明」とし、「特に動作主がXであると特定できず、動作主が世間一般の人々である」という場合を「不特定」とする。

som är uppförda i portugisisk stil och kullerstensgatorna.
(*Tystnaden* 1.30.16)

- (4) 日： 御子をだいたサンタ・マリアをはめこんだ板が足もとにおかれ
ました。(『沈黙』4.84.7)
- ス： En planka på vilken hade fästs en bild av den heliga Jungfrun och
Barnet, placerades framför deras fötter. (*Tystnaden* 4.94.16)
- (5) 日： 思惑よりだいぶん安い値段で、三つに分筆してしかしようやく
売れ、家はいよいよ明くる年の一月半ばに解体されることに決
った、と聞いた。(『猫の客』28.157.5)
- ス： Vi fick höra att hon hade sålt det till ett mycket lägre pris än hon
förväntat sig, att tomten avstyckats i tre delar, och att det hade
bestämts att huset och annexet skulle rivas i mitten på januari det
kommande året. (*Gästkatten* 28.132.25)

(3)の総督の官邸やポルトガル風の商館と石畳の路を作った人物、(4)の板に
サンタ・マリアをはめこんだ人物、(5)の家を分筆した人物はいずれも不明であ
る。あるいは、板にサンタ・マリアをはめこんだ人物や家を分筆した人物は文脈
とは関連性がないと考えることもできる。そのため、スウェーデン語でも動作主
を明示できず、受動態を用いていると考えられる。

3.2. 動作主が不特定の場合

動作主が不特定の場合、日本語でもスウェーデン語でも受動態が使われている
例、日本語では能動態が使われているがスウェーデン語では受動態が使われてい
る例、日本語では受動態が使われているがスウェーデン語では能動態が使われて
いる例がみられた。

まず、日本語でもスウェーデン語でも受動態が使われている例を挙げる。

- (6) 日： 包みをひらくと、町のふつうの鮎屋で出されるシャコよりも、二
まわりほど大きいか、と思えた。(『猫の客』9.54.3)
- ス： När vi packade upp dem, såg vi att de var nästan dubbelt så stora
som de mantisräkor som serveras på vanliga sushirestauranger i
stan. (*Gästkatten* 9.43.7)

(6)で動作主は表出されていないが、「町のふつうの鮎屋で、店の人によって一
般的に出されるシャコ」ということで、動作主は不特定の人であるとわかる。動

作主が不特定のため、日本語で表出されず、スウェーデン語でも受動態が用いられていると考えられる。

次に、日本語では能動態が使われているがスウェーデン語では受動態が使われている例を挙げる。

- (7) 日： 運命（フォルトゥーナ）ということばを好んでつかうつもりはないが、隣家からの仔猫の訪れが繁くなるにつれて、しかし、このことばでしかいえないものもあると思うようになった。（『猫の客』4.25.1）
- ス： Det är inte så att fortuna i betydelsen "öde" är ett ord som jag alldeles särskilt gärna vill använda, men allteftersom besöken av grannvillans lilla katt blev allt tätare kom jag att tänka att det är vissa saker som inte kan uttryckas med något annat ord. (*Gästkatten* 4.21.1)
- (8) 日： 水磔というのは、海中に木柱を立てて基督信者たちを縛りつけておくことです。（『沈黙』1.22.14）
- ス： Straffet innebar att träpålar drevs ner i vattenbrynet, därefter bands de kristna fast vid dem. (*Tystnaden* 1.32.23)

(7)の日本語では動作主が明示されていないが、ここでの動作主は総称としての人であり、不特定である。(8)の日本語でも動作主は不特定の人である。そのため、スウェーデン語でも動作主を明示せず受動態を用いていると考えられる。

そして、日本語では受動態が使われているがスウェーデン語では能動態が使われている例では、いずれも、スウェーデン語では不定代名詞 *man* を用いた能動文で表されている。*man* は「世間一般の人」という不特定の人を表す不定代名詞である (SAG2 1999: 393-395)。今回みられた例を以下に挙げる。

- (9) 日： これらは、ミレトスのターレスがピラミッドの高さを測量したときに用いたのではないかと推測されている方法である。（『猫の客』18.109.1）
- ス： Det är dessa metoder man förmodar att Thales från Miletos använde sig av för att räkna ut pyramidernas höjd. (*Gästkatten* 18.88.2)
- (10) 日： よほど前生に縁があったものかと考えさせられないこともないが、縁があったと思うだけで気味が悪いから、この考えはすぐに

途中で放棄されてしまう。(『猫の客』23.133.9)

- ス： Det är nästan så att man kan tänka sig att den beror på att man i ett föregående liv haft ett nära band till det man känner aversion mot, men blotta tanken på att man skulle ha haft det är rysligt obehaglig, och därför släpper man den genast utan att vidareutveckla den. (*Gästkatten* 23.112.29)

(9)では、推測しているのは一般的な世間の人々であるため、スウェーデン語では不特定多数の人を表す不定代名詞 *man* を用いて能動文で表されていると考えられる。(10)でも、一般的な事象について述べられており、そのために不定代名詞 *man* を用いて能動文で表されていると考えられる。

3.3. 動作主が二人称または三人称の場合

動作主が二人称または三人称の場合、スウェーデン語では受動態が使われている文がほとんどであった。例を以下に挙げる。

- (11) 日： チビが攻撃されれば、ミケはいつそう警戒される立場になる。
(『猫の客』14.82.10)
- ス： Ju mer Chibi attackerades, desto mer vaksam blev hon gentemot Mike, (*Gästkatten* 14.67.27)
- (12) 日： 画家はとろとろで速乾性のそれをあえて用いて、そのために瞬時のうちにイメージを捕縛するしかない「稲妻捕り」の作業を、モノクロームで行なった。(『猫の客』15.90.13)
- ス： Konstnären måste kvick använda den trögflytande, snabbtorkande blandningen och är alltså tvungen att på ett ågonblick fånga bilden. De verk med titeln "blixtfångande" som hade utförts i den här tekniken var monokroma. (*Gästkatten* 15.74.21)

(11)の下線部の動作主は表出されていないが、「ミケ」という三人称だということが明らかである。日本語では受動態が使われているが、スウェーデン語でも同様に受動態が使われている。(12)の日本語でも、動作主は「画家」という三人称であるが、動作主に焦点が当てられておらず、そのために、スウェーデン語では動作主を明示せず受動態を用いていると考えられる。

3.4. 動作主が一人称の場合

日本語で受動態が用いられていて動作主が一人称の場合、スウェーデン語では動作主を主語とし、能動態を用いる例がほとんどであった。また、その際、日本語で動作主が明示されていない場合でも、一人称であると自明である場合には、主語として表出されている。具体的には、次のような例がみられた。

- (13) 日： 慎重でおとなしい父猫はそのまま、おとうさんと呼ばれた。(『猫の客』26.146.11)
ス： Den försiktige och lugne pappan kallade vi helt enkelt för Pappa. (*Gästkatten* 26.124.8)
- (14) 日： サンドルを挿んでいつでも帰れるように開けておいた玄関の扉は、正月二日を期して閉められた。(『猫の客』27.151.5)
ス： Vi höll alltid en springa öppen i ytterdörren med hjälp av sandalen, så att hon skulle kunna komma in igen när som helst. Men dagen efter nyårsdagen stängde vi dörren, (*Gästkatten* 27.127.7)

(13)の動作主は「私たち」という一人称であるが、日本語では明示されず、受動用いられている態が。しかし、スウェーデン語ではいずれも動作主を主語として明示し、能動態を用いて表されている。(14)の動作主も「私たち」という一人称であり、(13)と同様に、日本語では明示されず、受動態を用いて表されているが、スウェーデン語では動作主を主語として明示し、能動態を用いて表されている。

4. 考察

3.1～3.4の結果から、スウェーデン語では、不定代名詞 *man* を用いる場合を除き、動作主が一人称以外の場合は受動態が用いられ、動作主が一人称の場合は主語として明示し能動態が用いられる傾向があるとわかる。

ここで、スウェーデン語において、動作主が一人称の場合にそれを受動文で表すことは自然なのかという疑問が生まれる。この点について取り上げている先行研究は管見の限り見当たらなかった。

そこで、動作主が一人称であるスウェーデン語受動文について、次節でみていきたい。

4.1. 動作主が一人称であるスウェーデン語受動文

スウェーデン語において、動作主が一人称（一人称単数の mig または一人称複数の oss）で明示されている受動文がどの程度みられるのかについて、スウェーデン語コーパス検索システム Korp (Språkbanken) で検索した。

検索の際には、Moderna（現代スウェーデン語コーパス）内の PAROLE¹²を用いた。まず、「動詞かつ s で終わる +av+ 名詞または固有名詞または代名詞」を検索すると 10358 件であった。次に、「動詞かつ s で終わる +av+ mig または oss」を検索すると 41 件であった。つまり、動作主が明示されている受動文の中で、動作主が一人称であるものは、10358 件中 41 件（約 0.004%）という結果となった。

動作主が一人称として明示されているものとしては、次のような文がみられた。

- (15) —Mina historier ska berättas av mig. (PAROLE, språkbanken)
 <「私の話は私によって語られるべきだ」>
- (16) Samma principiella ståndpunkt måste naturligtvis intas av oss. (PAROLE, språkbanken)
 <同じ基本的観点が当然私たちによって導入されなくてはならない。>

このように、動作主が明示されている受動文の中で動作主が一人称のものの検索数が 10358 件中 41 件と少ないことから、スウェーデン語では一人称が動作主の場合、受動文にしない、あるいは受動文にしても動作主を明示することが少ないと考えられる。

4.2. 考察のまとめ

前節を踏まえると、まず、動作主が一人称の場合、一人称を主語とし能動文となるということがわかった。そして、動作主が一人称以外の場合、不定代名詞 man を用いた場合を除いて受動文となるということがわかった。これらを表にまとめると以下ようになる。

動作主	一人称	二人称／三人称	不明	不特定
受動文	×	○	○	○
能動文	○	×	×	○ (主語が人称代名詞 man の場合)

(表 4) スウェーデン語テキストにおける動作主とヴォイスの関係¹³

¹² PAROLE コーパスとは、小説、日刊紙、雑誌、インターネット上のテキストが含まれる EU のプロジェクト PAROLE で作成されたスウェーデン語コーパスである。トークン数は 24303096、テキスト数は 1625870 である (Språkbanken)。

¹³ 「○」は出現の頻度が高いことを、「×」は出現の頻度が低いことを表す。

5. まとめ

本稿では、日本語とスウェーデン語の受動文を比較し、動作主の観点からスウェーデン語におけるヴォイスの分析を行なった。その結果、動作主が一人称以外の場合、不定代名詞 *man* を用いた場合を除いて受動文となり、動作主が一人称の場合、一人称を主語とし能動文となる傾向があるということがわかった。これはスウェーデン語の受動文について扱った先行研究ではわからなかった傾向でもある。

En omprövning av passivuttryck på svenska jämfört med passivuttryck på japanska

– Från typ av agent –

Kiyoka Nishizawa

Sammanfattning

Denna uppsats behandlar passivkonstruktionen som finns i svenskan och japanskan. För att undersöka detta har exempel hämtats från två japanska romaner och deras svenska översättningar som material. Sammanlagt har 591 passiva meningar excerperats från materialet.

Resultatet visar att subjektivitet spelar en viktig roll när det kommer till de två språkens passiva satser. Detta visas i tabellerna nedanför.

(typ av) agent	första person pronomen	andra/ tredje person pronomen	oklart	obestämd
passiva	×	○	○	○
aktiva	○	×	×	○ (när substantiv är personlig pronomen <i>man</i>)

Tabell 1: resultatet för det svenska materialet

Slutligen är subjektivitet ett element i båda japanska och svenska passiva satser.

使用テキスト

- Endo, Shusaku. 2016. *Tystnaden*. översättas av Duke, Eiko & Duke, Yukiko. Umeå: Atrium Förlag.
- Hiraide, Takashi. 2015. *Gästkatten*. översättas av Emond, Vibeke. Stockholm: Brombergs Bokförlag AB.
- 遠藤周作. 1981. 『沈黙』(文庫版) 東京: 新潮社.
- 平出隆. 2009. 『猫の客』(文庫版) 東京: 河出書房新社.

参考文献

- Andersson, Erik. 1994. *Grammatik från grunden: en koncentrerad svensk satslära*. Uppsala: Hallgren & Fallgren.
- Engdahl, Elisabet. 1999. "The choice between bli-passive and s-passive in Danish, Norwegian and Swedish" <https://pdfs.semanticscholar.org/9340/a325992ad4e09699a6c68d6f79bb3a348369.pdf>
- . 2001. "Valet av passivform i modern svenska" <https://www.ep.liu.se/ecp/006/007/ecp00607.pdf>
- . 2006. "Semantic and syntactic patterns in Swedish passives" Demoting the Agent: Passive, middle and other voice phenomena. 21-45. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Engdahl, Elisabet & Anu Laanemets. 2015. "Prepositional passives in Danish, Norwegian and Swedish: A corpus study" *Nordic Journal of Linguistics*. 38 (3), 285-337.
- SAG2 (=Teleman, Ulf, Staffan Hellberg & Erik Andersson (red). 1999. *Svenska Akademiens grammatik 2 Ord*. Stockholm: Norstedts.)
- SAG3 (=Teleman, Ulf, Staffan Hellberg & Erik Andersson (red). 1999. *Svenska Akademiens grammatik 3 Fraser*. Stockholm: Norstedts.)
- SAG4 (=Teleman, Ulf, Staffan Hellberg & Erik Andersson (red). 1999. *Svenska Akademiens grammatik 4 Satser och meningar*. Stockholm: Norstedts.)
- SAOL (=Svenska Akademien. 2015. *Svenska Akademiens ordlista*. Stockholm: Norstedts.)
- Språkbanken. <https://spraakbanken.gu.se/>
- Sundman, Marketta. 1987. *Subjektval och diates i svenskan*. Åbo: Åbo akademins förlag.
- Whaley, Lindsay J. 1997. *Introduction to Typology: The Unity and Diversity of*

Language. Thousand Oaks, California: Sage Publications.

工藤真由美. 1990. 「現代日本語の受動文」言語研究会（編）.『ことばの科学』東京：むぎ書房. 47-102.

久野暲. 1978.『談話の文法』東京：大修館書店.

高見健一. 1995.『機能的構文論による日英語比較』東京：くろしお出版.

———. 2011.『受身と使役—その意味規則を探る—』東京：開拓社.

寺村秀夫. 1982.『日本語のシンタクスと意味 第1巻』東京：くろしお出版.

日本語記述文法研究会（編）. 2009.『現代日本語文法 2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』東京：くろしお出版.

益岡隆志. 1987.『命題の文法：日本語文法序説』東京：くろしお出版.

益岡隆志&田窪行則. 1992.『基礎日本語文法—改訂版—』東京：くろしお出版.

森田良行. 2008.「受動動詞」『動詞・形容詞・副詞の事典』東京：東京堂出版.